

ようこそ畑へ

2011年8月1日(月)・4日(木)

【寛記】

7月26日、恵庭で行われた自然栽培の勉強会に愛子と二人で行ってきました。会場は、坂本一雄さんという方の農場で、坂本さんは現在70歳を過ぎていますが、お母さんが自然農法を続けて来た畑を引き継ぎ、野菜と花をあわせて100種類以上の種採りを続けている方です。

坂本さんは、永年、国家公務員として働かれており、退職後は、御自身と奥様二人の生活は年金でまかない、農産物の販売で得た収入は若い農業者の、特に新規就農者の育成のために使っているとのことでした。坂本さんのもとで自然農法を学び、独立した方も多く、農場を訪問してアドバイスをしたり、生産者や消費者を受け入れ、自然農法の指導を積極的に行っているそうです。

お話を伺っていて、「若い人のために。」という想いがひしひしと感じられました。勉強会には僕達も含めて40代（農業の世界では若手です。）の農家も参加しており、坂本さんはじめ永年自然栽培に取り組んできた方の想いを引き継いでいくことも大切だ思いました。

一方、坂本さんは、自分のことを「師匠」と呼ぶ若手の農業者に対して、「私のことを師匠って呼ばないように（笑）」とおっしゃって、さらに、師匠は野菜や畑であり、ひいては大自然こそが学ぶべき師匠であるとお話されていました。

これまで6年間、自然栽培に取り組んでいる農家の方と交流する機会はほとんどなかったのですが、勉強会には、20名の方が参加しており、ベテラン農家の方や私達と同様に新規就農して自然栽培に取り組んでいる方と交流できたことも収穫の一つでした。

翌日は、自然栽培の普及を手掛けるナチュラル・ハーモニーの河名さんの消費者向けセミナーに参加しました。40名程が参加して、自然と調和した暮らしの提案に熱心に耳を傾けていました。

最も印象に残ったのは、宮崎県で牛の口蹄疫が流行したとき、感染が広がった地区の中で、自然に即した餌や環境で飼育している畜

産農家の牛は感染しなかったという話です。これを人間に当てはめると、自然に即した生き方をしていれば、感染症などが流行しても、それほど恐れる必要はないということです。そのためには、食品添加物、農薬、肥料、薬などの化学物質を出来るだけ身体に入れないことと、「〇〇はガン予防に効く」などという健康情報に惑わされず、自分の五感をフルに働かせながら食材を選んでいくことが重要であると強調されていました。

この二日間の学びをこれからの日々の生活や畑での作業で確認しながら、深めていきたいと思っています。

【ズッキーニ】自家採種

ピーラーで縦に薄切りにしてしゃぶしゃぶに入れて食べました。しゃぶしゃぶでなくても、さっとゆでて、お好みのドレッシングなどで食べてもおいしいと思います。

【ナス】自家採種

少し採れ始めました。昨年は苗の育ちが悪く、ほとんどお届けできませんでしたが、今年は今のところ元気に育っています。来週以降本格的に採れてきそうで、楽しみです。

【きゅうり】自家採種

少し遅れていましたが、採れ始めました。畑に植えた後、枯れてしまった苗があり、全体的な収穫量は昨年より減りそうですが残っている苗は元気に実をつけ始めました。切った時の香りも楽しんでください。